

安全で安心して暮らせる まちの実現に向け



相模原市消防局長 岩田 進一

相模原市は、神奈川県北西部に位置し、北は東京都、西は山梨県と接しており、東京都心からもアクセスが良い位置にあり、首都圏南西部をリードする広域交流拠点都市として発展を続けていくため、成長戦略を持った都市基盤整備や産業を中心とした新たな拠点づくり、にぎわいのあるまちづくりに取り組んでいます。

近年では、小惑星探査機「はやぶさ」の研究拠点である宇宙航空研究開発機構（JAXA）のある都市としても知られるようになりましたが、昨年9月に発表された本市へのリニア中央新幹線中間駅の設置、本年6月には神奈川県中央部を南北に走るさがみ縦貫道路（圏央道）の市域内全線開通等、更なる発展と変革の時期に、市制施行60周年を迎えています。

本市消防局といたしましては、局の運営方針の基本目標である「市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはらの実現」に向け、72万人市民の安心、安全への期待に応えるために、職員747名を擁し、4消防署、14分署、2出張所、1救急派出所を配して、あらゆる防災・減災対策を推進しています。

本年度は、消防力整備計画に基づき、津久井消防署、相原分署、（仮称）青根分署の整備を進め、消防力の強化に取り組むほか、9月1日の防災の日には、今後発生が懸念される首都直下地震や東海地震等による被害を最小限に食い止め、市民との連携強化、広域防災体制の充実を図るため、市内の在日米軍の施設のひとつである相模総合補給廠（在日アメリカ陸軍補給施設）の一部返還予定地において、九都県市による合同防災訓練を実施します。また、来年1月29日、30日には、救急隊員等が集い、全国の先進的な救急医療に関する研究発表や意見交換を通じて、消防機関の行う救急業務の充実と発展に資することを目的として「第23回全国救急隊員シンポジウム」を開催いたします。

消防団との連携強化に資する取組といたしましては、本市の消防団は、平成18、19年の市町合併時から5団体制で災害等に対応しておりましたが、平成24年に指揮命令系統の一元化等を図るため、1団6方面隊体制へと組織を再編し、火災や地震等の災害時への対応を強化いたしました。

未曾有の大規模災害である東日本大震災から3年が経ちましたが、本市といたしましては、全国の市町村をはじめ、国、県、防災関係機関等との連携強化を図りながら、更なる防災意識の高揚と減災への備えを万全にしていまいりますので、消防行政に関わる皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。